

## サケは自然の使者

秋になると全道各地の川で、サケの遡上が見られる。また、サケの生態を間近に見ることが出来る施設や取り組みも多い。標津町の「サーモン科学館」には、標津川に直結した魚道水槽があり、川を遡る自然のサケの産卵風景や稚魚の遊泳を見ることが出来る。千歳市にある「インディアン水車」と呼ばれる捕獲施設では、千歳川を遡るサケが1尾ずつ水車にかかってくる様子を橋の上からも直接見ることが出来る。

札幌市の中心部を流れる豊平川にもサケが遡上する。一時期、サケの遡上が見られなくなったが、「カムバック・サーモン運動」が子供たちや民間企業の間で大きな輪となって広がり、稚魚の放流や魚道整備、きれいな川を呼び戻す浄化運動などが展開された。大人も子供も、都会の真ん中にサケがのぼり、産卵することを誇りに思っている。それはきれいな自然環境づくりのバロメーターでもあるからだ。



サーモン科学館（標津町）



捨てるところのないサケの料理法は多様だ



ない。成熟した天然のサケだからこそその「山漬け」は、漁師の保存食。塩をたっぷりとり込んだサケに重しをし、ひと月ほど熟成させ保存する。これを食べるために塩出しをして、漁師が寝泊まりする番屋の軒に何本もぶら下げられることから、別名「番屋鮭」などとも言われる。

サケはアイヌ語で「カムイ・チェップ（神の魚）」と呼ばれる。遡上の時期になると新しいサケを迎え、神からの贈り物に感謝する「アシリチェップ

ノミ」と呼ばれる儀式を行う。アイヌ民族にとっても、食としてばかりではなく、サケの皮で靴や着物などの日用品を作るなど生活と密着した大切な魚であった。

長い旅を終え、身をボロボロにしながらふるとの川を遡るサケ。最後の力を振り絞って、産卵、受精を終え、力尽き生涯を閉じるその姿は感動的で、生命の壮大なドラマとも言える。

### Data



#### ●お問い合わせ先

標津町水産課 Tel.01538-2-2131  
 標津サーモン科学館 Tel.01538-2-1141  
 開館時期：5～10月は無休。2～4、11月は水曜休館（水曜が祝日の場合は翌日）。12～1月は休館。  
 開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）  
 入館料：一般610円、高校生400円、小中学生200円（団体割引あり）。